



Nara
Women's
University

Today

編集：奈良女子大学広報企画室

第14号
2010.6.1

第2期中期目標期間スタートにあたって



野口 誠之 学長

写真中の地球儀は、本学が2009年5月1日に創立百周年を迎えたことを記念して作成したものです。

昨年度は、本学創立百周年の年であり、様々な記念祝賀行事を行ったことは記憶に新しいところです。この間、多くの方々にご協力・ご尽力を頂きましたが、中でも、皆様のご厚志の集大成である寄付金は、それまでの寄付も含め1億円を超えることができましたことをご報告いたします。まことにありがとうございます。篤く御礼申し上げます。これを原資として、「奈良女子大学基金」を創設し、広く、教育研究環境整備、学生支援等を中心に役立てたいと思っておりますので、今後とも、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、国立大学は、2004年の法人化後、6年ごとの中期目標・中期計画を立て、その達成度の評価が次期の運営費交付金に反映されることになっています。本学は、法人化第1期目において目標・計画とも全て達成しましたので、運営費交付金の増減はありませんでしたが、評価順位は国立大のちょうど中間に位置するものでした。また、学内的には学部間の評価に明らかな差異がありました。法人評価の方法には賛否両論がありますが、本学は、まだまだ努力する余地があります。

本年度は、法人化第2期目の初年度に当たります。法人化第2期目は、大学の機能別分化という観点からの改革が強く求められています。奈良女子大学のミッションは何か、本学の特徴をより明確に社会にアピールしていく必要があります。本学は、その歴史と伝統の中で、常にその時代の女性に高度な教育研究の場を提供し、女性高度専門職業人として育成し、社会に輩出してきました。現に、多くの卒業生が社会の各方面で活躍してきたことは皆様ご存じの通りです。本学はこの基本路線を堅持し発展させることを目指します。更に、どのような制度や組織でも、発足当時の理想とその後の現実が不整合になることは世の常です。本学では、文学部、理学部、生活環境学部の3学部とその上に全学的な大学院人間文化研究科が設置されていますが、そこでの教育研究の内容を見直し、それに伴う教育研究組織の改編を行います。

魅力ある学部・大学院を目指し、奈良女子大学の構造改革を進める所存でありますので、皆様方のご協力・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。なお、第2期中期目標・中期計画は本学のホームページに掲載してありますので、ぜひご覧下さい。

【メインメニュー欄】→【大学の紹介】→【法人情報】 <http://www.nara-wu.ac.jp/intro.html>

平成22年度 新役員紹介

● 役員（7名）

学長	野口 誠之
理事（企画・研究担当）・副学長	佐久間 春夫
理事（教育・学生支援担当）・副学長	野口 哲子
理事（管理運営担当）・事務局長	馬場 祐次朗
理事（非常勤）	本田 元子
監事	今井 啓一 氏
監事 パナソニック株式会社理事・CSR担当室長	鈴木 敦子 氏

● 経営協議会委員（10名）

学長	野口 誠之
理事	佐久間 春夫
理事	野口 哲子
理事	馬場 祐次朗
理事	本田 元子
財団法人国際高等研究所長	尾池 和夫 氏
木津川市長	河井 規子 氏
大阪府和泉市教育委員長	馬越 かよ子 氏
近畿日本鉄道株式会社代表取締役会長	山口 昌紀 氏
独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館長	湯山 賢一 氏

● 教育研究評議会評議員（18名）

学長	野口 誠之
理事	佐久間 春夫
理事	野口 哲子
理事	馬場 祐次朗
文学部長	三野 博司
理学部長	塚原 敬一
生活環境学部長	清水 哲郎
大学院人間文化研究科長	岩 潤 修
附属図書館長	富崎 松代
附属学校部長	中島 道男
文学部教授	内田 聖二
文学部教授	小路田 泰直
理学部教授	荒木 正介
理学部教授	角田 秀一郎
生活環境学部教授	今岡 春樹
大学院人間文化研究科教授	三木 健寿
文学部教授	栗岡 幹英
理学部教授	棚瀬 知明

「第9回ハイ・サービス日本300選」に国立大として初めて選出

経済産業省の委託事業としてサービス産業生産性協議会（財団法人 日本生産性本部）が行う「ハイ・サービス日本300選」に本学が国立大として初めて選出されました。同300選とは各関係機関、オブザーバー省庁などからの推薦に基づき、産業界や大学関係者からなる選定委員会が、生産性向上に資する先進的な取り組みを行う企業・団体の優良事例を表彰・公開している事業です。

今回の受賞では、歴史的市街地に立地する大学を地域社会変革の拠点にと、学生を中心とする奈良の文化・伝統食材の配信プロジェクトを推進してきたこと、また、数々の奈良らしい商品を地場企業と創出し、学生の実践的な育成とともに、地域や産業の活性化につなげてきたことが評価されました。



学生が主体となった活動の様子

新登場!!

奈良の桜くつきい

桜香がほのかな余韻を残す
八重桜花酵母酒のお福分け



本学が開発に携わった商品

独立行政法人日本学術振興会の「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」に、本学が申請した事業が選定

独立行政法人日本学術振興会による「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」の「公募型研究領域」に、本学が申請した「文化財に含まれる膠の自然科学的分析による古代文化史および技術史の解明」が選定されました。本事業は、既存の学問・研究分野を超えた「異分野融合型共同研究」を推進し、人文・社会科学研究の新たな展開と発展に資することを目指しており、今回選定された事業は、歴史的資料に含まれるタンパク質の正確な同定に基づいて歴史情報を解読するという歴史研究のための新しい学際的研究法の確立を目的としています。

総合研究棟 文学系S棟完成

総合研究棟 文学系S棟(旧文学部南棟)の改修工事が平成22年3月に完了したことにより、本学において順次実施してきた校舎の耐震改修工事が終了しました。外観は、記念館および北側に位置する総合研究棟 文学系N棟(旧文学部北棟)に調和する色調やデザインとなるよう工夫されており、講義室、主に文学部教員の研究室、資料室などが入居しています。



文部科学省の科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」プログラムに、本学が申請した事業が選定

文部科学省の科学技術振興調整費「女性研究者養成システム改革加速」プログラムに、本学が申請した「伝統と改革が創る次世代女性研究者養成拠点」が選定されました。本事業は、多様な人材の養成・確保及び男女共同参画推進の観点から、特に女性研究者の採用割合等が低い分野である、理工農学系の研究を行う優れた女性研究者の養成を加速することを目指しており、今回選定された事業は、これまで多数の女性研究者を輩出してきた本学の実績をもとに学長主導の全学的な男女共同参画推進体制を強化し、積極的に優れた女性研究者を養成することを目的としています。

平成22年春の記念館（重要文化財）一般公開

4月29日(木)～5月5日(水)、春の記念館一般公開を開催し、期間中、約1,250名の来館者を迎えました。特別展示として実施した「奈良女子大学所蔵資料」では、国宝級ものとしてメディアにも取り上げられた「雲珠(うず)」(重要な儀式のときに使われる馬飾り、唐鞍の一部)や1949年製の手回し計算機など約30点の所蔵資料が並べられ、訪れた人々は歴史的価値のある資料に感激するとともに、早くも秋の開催を期待していました。



記念館（正面）



「雲珠」を見学する来館者

公開講座のご案内

すべて無料です。
申込方法等詳細はホームページをご覧ください。

(<http://koto.nara-wu.ac.jp/ile/info4.html>)

■講座名	■開催日時	■受講対象
夏を健康で快適に過ごす為の生活環境と生活習慣	7月3日(土)	13時～16時 一般50人
平城京と平安京「天平萬葉の長歌」「平安京の庶民生活」	7月3日(土)	13時30分～15時30分 一般100人
金融に関する「気をつけて欲しいこと 役立つ情報」 ～金融犯罪被害にあわないために、金融資産を守るために～	7月31日(土)	13時30分～15時30分 一般・学生50人
遺伝子解析の方法を体験しよう	8月3日(火)	9時～17時 教員10人
形をめぐる数学の展開	8月18日(水)	10時～15時 一般・教員・高校生80人
ネットワークの不思議	9月18日(土)	13時～16時30分 一般30人
対称性の破れ～物性から宇宙まで～	10月2日(土)	13時～16時15分 一般50人
(仮題) 平城京の姿とくらし	10月28日(木)	14時～ 一般50人
女子大学と女性論	12月11日(土)	14時～17時 一般200人

全学教養教育科目「大学生活入門」がスタート



学長による講義

本学では、新入生が一日も早く大学の勉学生活に慣れるため、また、安全な大学生活を送るための基本的な知識を身につけることを目的として全学教養教育科目に「大学生活入門」を新設しました。この講義では、学長・副学長・各学部長・大学院研究科長・図書館長がそれぞれの立場から新入生にメッセージを贈るほか、学外から奈良警察署防犯課担当者やカルト問題の専門家らを招き、自由であるがゆえに危険も伴う大学生活について注意点を解説します。講義会場となった講堂では、終始熱心に耳を傾ける学生の姿が数多く見られ、半年間にわたる受講を通して、自らの力でいか様にも切り開いていける大学生活を充実させる確かな糸口をつかんでいくことが期待されます。

刊行物のご案内

<奈良女子大学百年史>

昨年5月に創立100周年を迎えた本学では、これを記念する事業の一つとして、明治42年の奈良女子高等師範学校開校からの本学の歩みを振り返る「奈良女子大学百年史」（1,152頁・非売品）を本年5月に刊行しました。



<研究紹介集 2009 - 2010>

本学教員の研究活動の概要が分かりやすく記載されています。ご希望の方には、郵送料のみで送付させていただきますので、社会連携センターまでお申し出ください。



<地域貢献事業実施報告書>

平成15年度以降、本学はさまざまな地域貢献特別支援事業を展開してきました。

このたび平成21年度事業の概要と成果をとりまとめた「平成21年度 奈良女子大学地域貢献事業実施報告書」を刊行しました。



平成22年 3月31日付退職教職員（定年退職のみ）

<文学部>

杉峰 英憲・塚本 正明・戸祭 由美夫・濱田 壽美男・松尾 良樹・松本 博之

<理学部>

鈴木 俊治

<生活環境学部>

岩崎 雅美・清水 新二・伊達 ちぐさ

<大学院人間文化研究科>

磯田 則生・坂本 信幸

<事務局>

荒生 宣幸・浪原 守男



新緑が眩しいほどに美しい五月、キャンパス内に現れた鹿の親子です。

附属中等教育学校は 2010 年 5 月に創立百周年を迎えました

本学附属中等教育学校が 2010 年度～2014 年度の SSH および 2010 年度コア SSH に指定



附属中等教育学校

文部科学省では、平成14年度から、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し、理数教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を実施しており、附属中等教育学校は平成17年度にSSHの指定を受けました。そして昨年度までの5年間の研究で高い評価を受け、平成22年度から新たに5年間、『中等教育6年間に於いて、自然科学リテラシーを基盤とするリベラルアーツの育成のためのカリキュラム開発と、高大接続のあり方についての研究開発』をテーマとしてSSHに指定されました。

また、今年度はさらにコアSSHとしての採択も受け、「海外の理数系教育重点校との連携」を中心に、教員の現地研修など国際連携を通じた中高生の理数の才能を育成する指導方法の研究開発に力を注いでいきます。

また、今年度はさらにコアSSHとしての採択も受け、「海外の理数系教育重点校との連携」を中心に、教員の現地研修など国際連携を通じた中高生の理数の才能を育成する指導方法の研究開発に力を注いでいきます。

平城遷都 1300 年 ～古都の魅力を世界に発信～

<活躍する奈良学生ガイド>

奈良学生ガイドは、東京五輪が開催された昭和39年に設立された学生だけのボランティア団体で（現在15名、うち6名が本学学生）外国人観光客を対象に英語による観光案内を行っています。



私がガイドになったのは1回生の終わり。異文化交流に興味を持ち、奈良でしかできないことをやってみたく思ったのがきっかけでした。そして先輩の姿から多くを学びながら、これまで、国籍は様々、約200名のガイドを務めました。とりわけ思い出に残っているのはフィンランドからのツアー客で、帰国後に、ある一人の女性が送ってくれた写真集は今も私の宝物です。

今年は平城遷都1300年という記念すべき年にあたります。平城宮跡訪問を希望する外国人観光客をはじめ、ガイドの需要が高まる中で、私はこれまで以上に日本文化や英語表現について学習を深めていきたいと思っています。奈良を訪れる外国人観光客に「Fantastic!!」という感動の一つでも多く味わってもらうことを切に願いながら、学生ガイドとしての階段をのぼってまいります。

（文学部4回生 永井 茜）

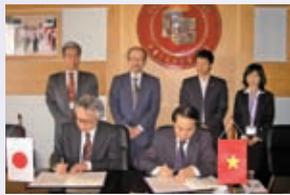
<奈良かるた>



平城遷都1300年を記念して奈良にちなんだ風景や歴史、行事、特産品などを取り入れたオリジナルかるたが「中川政七商店」（奈良市）から、発売されました。句の監修にあたったのは、「なら学プロジェクト」（長い歴史を有する奈良の社会や文化の特性を現代的視点から読み解き、その成果を外部に発信する試み）を推進する本学文学部人文社会科学寺岡伸悟准教授であり、遊びを通して、奈良の歴史や文化を存分に味わうことのできる内容となっています。

国際交流協定締結—ハノイ貿易大学、ハノイ大学と交流協定を締結—

野口学長と小山国際交流センター長がベトナムを訪れ、2010年3月29日付けでハノイ貿易大学と、3月30日付けでハノイ大学と大学間交流協定を締結しました。



ハノイ貿易大学協定締結式

ドイツ大使による記念講演

2010年5月24日(月)、奈良を訪れたドイツ連邦共和国Volker Stanzel大使が、日独修好150年を記念して、本学記念館講堂において「ドイツと日本—明日の我々をつなぐもの…」と題して、記念講演会を行いました。



ドイツ大使講演

2010年度JICA青年研修<アフガニスタン：女子教育>を実施

五女子大学コンソーシアム(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)とJICA(国際協力機構)との共催で、2010年1月13日(水)から30日(土)の間、研修が行われ、本学では、その中の1月21日(木)～23日(土)を担当し、15名の研修員を迎え、大学キャンパス、附属小学校、東大寺の3箇所で開催しました。今回は、高等学校で教鞭をとっている若手教員が中心でした。伊達教授による「食生活と健康」に関する講義と実習のほか、附属小学校ではPTA活動の事例紹介を受け、活発な意見交換がありました。



「食生活と健康」の実習

学長主催修了等留学生懇談会

2010年2月22日(月)、学長主催の卒業・修了外国人留学生懇談会が実施されました。3月に卒業・修了予定の留学生や自国に戻る交換留学生を囲んで、和やかに歓談が行われました。学長から一人一人に記念品が手渡され、学生から一言ずつ感謝の言葉と今後の抱負が述べられました。



懇談会記念撮影

海外短期語学研修

2010年2月20日(土)から、ニュージーランドクライストチャーチにあるリンカーン大学English Language Centerで1ヶ月の語学研修を実施しました。研修生13名は、集中した学習計画に沿って研修を受け、3月20日(土)無事帰国しました。

日本語スピーチ大会と学長主催懇親会

2009年11月6日(金)、恒例の留学生による日本語スピーチ大会を開催し、そのあと生協食堂で学長主催の懇親会を行いました。学内外から多くの方に参加いただき盛会となりました。スピーチ大会の優秀賞となった曲向超さんは、11月19日(木)に行われた県下の大学間での大会に推薦され、結果準優秀賞の成績を残しました。心温まるスピーチの内容は、学園だより87号に掲載しています。



スピーチ大会表彰

国際交流往来(★は「往」 ☆は「来」を表します。)

☆ 2009年11月27日(金)、ハノイ外国語大学のNguyen Hoa学長に、Ngo Minh Thuy東洋言語・文化学部長が同行し、野口学長を表敬訪問しました。



ベトナム国家大学ハノイ外国語大学学長と

☆ 2010年1月17日(日)～1月30日(土)、国際交流センターのショートタームリターンプログラムにて、VJCCハノイ(越日人材協力センター)交流事業部人材育成プログラム担当のManh Thi Thanh Nga氏を招聘し、研究交流等を行いました。



Nga氏の講演

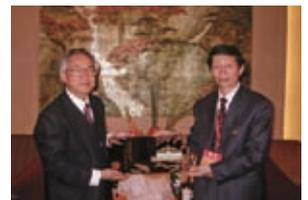
☆ 2010年2月8日(月)、タイ王国大使館学生部Warin Sukcharoen公使参事官が来訪され、奈良教育大学と本学に在籍するタイ人学生らと懇談の後、野口学長や小山国際交流センター長とタイとの交流について意見交換を行いました。Warin氏はSSHの指定を受けた本学附属中等教育学校の教育に強い関心を示され、高等学校教員の研修を行う際の協力や本学附属中等教育学校での教員研修を積極的に取り入れたい意向でした。



Warin氏と懇談

★ 2010年3月28日(日)～4月1日(木)、野口学長と小山国際交流センター長がベトナムを訪問し大学間協定の締結を行ったほか、すでに協定を結んでいる人文社会科学大学、外国語大学や協議中の自然科学大学、またベトナム教育訓練省、在ベトナム日本大使館を訪問し、各機関における高等教育研究の現況についてヒアリングを行いました。

★ 2010年5月18日(火)、中国蘇州大学が創立110周年を迎えるにあたり、記念式典に野口学長が招かれました。野口学長は、小山国際交流センター長と人間文化研究科の谷口洋准教授とともに祝典に参加しました。



蘇州大学110周年記念式典

☆ 2010年5月24日(月)、ドイツ連邦共和国Volker Stanzel大使は、記念講演会の前に、夫人と総領事夫妻とともに、野口学長を表敬訪問しました。

☆ 2010年5月24日(月)～25日(火)、英国レスター大学副学長Douglas Tallack教授の来学にあわせて、担当の国際交流をテーマにセミナーを実施し、奈良地域の大学にも参加してもらいました。また、専門のアメリカ文化史の特別講義を開き、多くの学生が聴講しました。



Tallack氏の特別講座

編集・発行 奈良女子大学広報企画室
編集責任者 佐久間春夫(副学長)
連絡先 奈良女子大学総務・企画課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
Tel 0742 (20) 3220 Fax 0742 (20) 3205
E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

